

## 日本科学者会議第一回大会

五月二八日午後、中央大学会館で日本科学者会議第一回大会が開かれた。

日本科学者会議は、昨年七月の在京科学者有志の「よびかけ」にこたえて、(1)日本の科学の自主的・民主的發展につとめ、その普及をはかること、(2)科学者の生活と権利をまもり、研究条件の向上と研究の組織・体制の民主化につとめ、学問研究と思想の自由をまもること、(3)科学の各分野の相互交流をはかり、自主・平等の国際交流をすすめること、(4)科学の団結と統一をつよめること、(5)科学の反動的利用に反対し、科学を人民の利益に役立たせるよう努力するとともに、内外の平和・独立・民主主義・社会進歩・生活向

上のための諸活動との連帯をつよめること、を目的として、昨年二月四日に創立発起人創会を開いて発足した(『教育』66年2月号の「教育情報」参照)。

発足後の日本科学者会議は、当時国会上程が間近に迫っていた「科学技術基本法案」が、科学・技術研究の強力な国家統制をしようとするものであるにもかかわらず、ほとんどの科学者・技術者に知られていないことを憂慮して、ただちに、全国の科学者・研究者に討論をよびかけ、また政府や日本学術会議の関係者に対しては国会への上程みあわせを申し入れるなどの活動をはじめた。(これは結局三月中旬、政府部内の意見不統一を理由に、今国会提出は見あわせとなっ

た)。そのほか、日本科学者会議の支部(都道府県単位)準備組織は、東京・京都・仙台・大阪・札幌など各地で、学問・思想の自由、大学の自治と大学設置基準、当面の私立大学問題、教科書検定問題、建国記念日制定問題、日本の「近代化」をめぐる論点、等々をテーマとするシンポジウムを開くというようになさし迫って、実際的な問題ととりくみながら組織化の活動を続けてきた。

大会当日までの間に、東京に設けられた事務局の手で、機関誌『日本の科学者』の「創立発起人大会の記録」、一、二号の三冊が発刊され、機関紙『科学者つうしん』は六号まで発行されて活動と組織化の前進、連絡のために役立てられた。

このような活動の結果として当日までに北海道・宮城・秋田・群馬・千葉・東京・神奈川・石川・岐阜・愛知・三重・京都・大阪・兵庫・徳島・愛媛の一四支部が確立され、支部確立準備中のところは静岡・青森・岩手・滋賀・兵庫・高知

・福岡・大分など一三県、会員数は三八〇四名と報告された。会員資格は、科学者・技術者・大学院生（学部学生は含まない）・研究活動をおこなう教師とされているが、会員構成の調査は未整理のようである。

大会は、林要氏の挨拶に始まり、議長選出のあと、新日本医師協会・在日朝鮮人科学者協会・全国大学院生協議会・原水爆禁止日本協議会からの祝辞を受けた。一般経過報告、科学技術基本法に関する特別報告、活動方針はそれぞれ報告・提案のあと一括して討論承認されたがこれについてはのちにふれる。決算については若干の赤字があり、会員拡大・創立募金のカンパで克服すべきことが強調された。

大会は、日程のさいごに、「ベトナム人民の闘いを支持し、韓国軍の南ベトナム派遣に抗議し、アメリカ原子力潜水艦の横須賀寄港に反対する決議」、「国家公務員の中国訪問禁止に対する抗議」（最近、水産研究所の研究者の訪中が政府の

禁止措置によって実現しなかったことをきっかけとした内容）、「小選挙区制、建国の日制定、教科書検定など一連の軍国主義復活政策に反対する決議」、「インドネシアの民主的科学者に対する非人道的弾圧に抗議する決議」、「在日朝鮮民族の自主的教育の権利抑圧に抗議する決議」を全員一致で採択した。

二

民科（民主主義科学者協会）の全国団体としての機能が崩壊して以後、民主的な科学者・研究者の連携をたもち全国的な規模で活動する組織はなくなっていた。だから、今日、新安保体制とよばれる全般的な反動的な政策が科学・技術分野にまで深くおよんでいることを考えると、個人加盟による科学者・技術者の全国組織がつくられることの意義は大きいのである。昨年七月の「よびかけ」が各界の科学者・研究者の賛同をもってむかえられ、決して楽観できないような状況のもとにあつて着々と組織化がすすんでいることもこの組織が今日の客観的要請

にこたえていることを示しているのではないかと思う。

ところで、最近では多くの科学者・技術者は、個人で活動しているごく一部の人を除いて、それぞれの職場で労働組合に結集しており、そのなかでは生活条件・研究条件の改善もたかかわれている。だとすると、日本科学者会議は、特定の職場・特定の研究活動分野の枠をこえるような問題、多くの科学者・研究者が共通してかかえている研究活動上の問題にとり組むことが大きな課題とされなければならぬと思う。かつての民科の活動の一部には、いわゆる政治的なひきまわりのような傾向もあったときいているが、今後の方針としては科学者・研究者としてのさまざまな要求を第一義的に重視してゆくことが組織で強化し、起こりうる活動上の偏向を未然に防ぐことになるのではないかと思う。「活動方針」の討議のなかでは以上のことが繰り返して強調された、と私は判断した。

全国幹事会の提案は、「自然と社会の

真理を追求し、人類の進歩と人民の生活に科学を役立てることは、科学研究にたずさわるものの心からの願ひである」が、「アメリカのベトナム侵略拡大と日大政府の『協力』」、「日韓条約」強行と中国敵視政策、小選挙区制・憲法改悪・『建国の日』制定をめざす動きなどは、われわれの生活にとって脅威であるばかりでなく、われわれの研究の発展にとっても重大な障害となっている。このような政治的・社会的な問題が直接に科学研究の条件と内容を規制するまでに及びしさを加えてきたことは、最近の著しい傾向である」という現状認識に立って、研究活動、「研究者白書」、研究条件の改善等々の当面の活動方針を示したものであった。これに対し、各支部の討議を経たものとして出された意見には、提案の基調となつている現状認識はたしかにそのとおりであるが、研究者自身のなかに、ことなかれ主義、研究内容を拘束しないならどこの国から出る金でもよいという思想、皮相な「近代化の傾向、単

なるデータの積み上げ主義、等々の弱点が、かもし出されて、これが政治的な統制強化と結びついて現われているとみなければ不十分なのではないか、その意味でもう少したった現状分析をふまえて活動方針をたてる必要があるのではないか、という趣旨の発言が多かつたように思う。

大会で採択された決議文も、一つ一つ

とつてみればどれもだいたいじにちがいないが、日本の科学者の切実な声として出されたという面が少くないのではないかと感ぜられた。

当面している情勢はそうとうに厳しいものであるが、焦らずにじっくり組んでいくことがいまは最も要請されている。すでに運動ははじめられたのだから未来は明るいのである。

関東民教協・第二回研究集会案内

- ▽ 期日 8月17日(水)午前九時半受付開始、18日(木)午後四時半閉会
- ▽ 会場 茨城県筑波山(江戸屋)
- ▽ 基本テーマ 教育の本質を明らかにしよう——民族的・民主的・科学的教育の確立をめざして——
- ▽ 記念講演 「民族の課題と教育」 岡倉古志郎(アジア・アフリカ研究所長)
- ▽ 分科会
  - ① 国語 ② 社会 ③ 算数・数学 ④ 理科 ⑤ 英語 ⑥ 音楽 ⑦ 美術 ⑧ 保健体育 ⑨ 技術・家庭 ⑩ 幼児教育 ⑪ 生活指導 ⑫ 教育運動 ⑬ 青年婦人 ⑭ 地域文化活動
- ▽ 会費 五〇〇円(父母・学生三〇〇円)
- ▽ 宿泊費 一三〇〇円(泊二食)
- ▽ 申込先 茨城県竜ヶ崎市佐賀町昭和住宅 正慶岩雄方  
関東民教協第二回研究集会実行委員会事務局  
TEL・竜ヶ崎(〇二九七六二一一一九四)
- ▽ 申込方法 予約金二〇〇円を添えて7月20日まで。